

もの言う牧師のエッセー 第300

「サニブラウンを叱ったお姉さん」

6月25日、大阪市で行なわれた、陸上世界選手権代表選考会兼日本選手権の男子200メートル決勝で、18歳のサニブラウン・ハキーム選手が20秒32の自己ベストで優勝、世界選手権の代表に内定した。彼は100メートルも制し、2003年の末続慎吾以来14年ぶりとなる短距離2種目制覇を果たした。「ハキーム、やったね！」と大喜びするのは、短距離走と走幅跳で北京世界陸上、ロンドン五輪、リオ五輪で金メダルを獲得し、今年 of 全米陸上選手権でも走幅跳で優勝を果たしたティアナ・バートレッタ選手。彼女はこの6カ月、“弟分”であるサニブラウンを支えてきた。

実は、サニブラウンは2週間前の11日にオランダのヘンゲロ市で行なわれた200メートルのレースでは7位に沈み惨敗していた。期待が大きかっただけに青ざめた表情で力なくベンチに座り込む彼と、やはり戸惑いを隠せない指導者のレイダー・コーチ。日本選手権まで僅か2週間。「何とかなる。何とかしないとイケない。」様々な気持ちが交錯する中、レイダー氏はサニブラウンの練習パートナーを、やはり全米選手権を2週間後に控えたバートレッタと組ませたのだった。

彼女は「この子は本物だ。今季10秒切れる。ヨーロッパ記録保持者と同じ練習をしてる。私たちの練習は普通のジュニアがついてこられるレベルではないが、ハキームはできているから。」とサニブラウンの才能に早い時点で気づいていたが、同時に彼が練習で100%を出さないことにも気づいており、ついにしびれを切らし「ハキームはどうして世界陸上に行きたいの？何がしたいの？」と問い詰めた。「今回は経験のために。。。」などと曖昧な答えをする彼に、「は？経験なんかのためにロンドンに行くの？そんな経験、ほかでも積めるよ。私は19歳の時に世界選手権初出場で優勝したんだよ。ハキームは来年19歳だよな？経験なんて言っている時間あるの？」と一気に畳み掛けた。

実は彼女も2005年ヘルシンキ世界陸上で金メダルを取った後、その次の目標が見出せず、燃え尽き症候群になった経験を持つ。才能はあっても、明確な目標がなければスポーツの世界で生き抜くことはできない。「姉さんに喝入れられましたね」と振り返るサニブラウン。彼女の厳しい一言で、ぼんやりした気持ちから「絶対に日本選手権で3番以内に入りロンドン世界選手権へ行く」と奮起できた。

「ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。」 ヘブル人への手紙12章12節、

と神はスランプに陥った信仰者に檄を飛ばす。ぼんやりとした状態から明確な目標へ、何となく教会へ行くのではなく神の国を目指して、奮い立たせるために。いつもイエスが聖霊を通して、厳しく優しく支えてくださる。

2017-9-15

